

日本意識の変容— 漫画・アニメの中国受容を通して

呉 端

(ウ・トゥアン/京都フォーラム研究員)

日本アニメの特徴は、政治的、経済的に組織化された日本ではなく、文化的、人間的、感情的、生活的、生命的観点から表現された、深層的で、多次元の日本観を創出しているところにある。アニメのストーリーが展開される空間では、生命、友人、家族、学校、商店街、地域社会等が良く描かれており、国家は抽象化され、人種、民族といった概念も薄い。アニメの時間領域は、過去、現在、未来、平行宇宙を超え、生と死を超え、そこには、精霊、動物、植物といった、あらゆる地球上の生命体が登場し、はるか宇宙にまで拡大していく。未知を既知にする、いわゆる常識を超えて、既知を未知へと、想像の領域を広げていくことで、若い世代の主人公の意識を涵養し、日本のアニメの世界では、いわば、生命誌としての日本観が形成されている。

こうした日本のアニメに親しむ中国の青少年は、世論の社会調査結果とは異なり、国家としての日本、また、日本人という国民としてではなく、アニメの中で、自然的、霊性的、生活的、心と心のふれあいを認知することで、国家や民族といった違いを超えた、人類の共進に寄与する、生命観的認識を獲得しているのではないだろうか。

日時:2014年 **11月5日(水)** **18:30～20:30**

場所:法政大学市ヶ谷キャンパス **ボアソナードタワー25階B会議室**

司会:王 敏(法政大学国際日本学研究所専任所員、教授)

参加申込:以下の申込専用フォームからお申込ください

<https://www.event-u.jp/fm/10419.html>

